平成24年度 第1回CCCコミュニケーション関係学グループ運営委員会 議事概要

I. 日 時 :平成24年5月8日(火)19:00~21:00

II. 場 所 :私立大学情報教育協会 事務局 会議室

III. 出席者 :阿部委員 北根委員

(事務局)井端事務局長 森下主幹 松本職員

IV. 議事概要

1. 検討内容

(1) 学士力実現に求められる教育改善モデルの検討

・教育改善モデルにおける授業の点検・評価・改善の仕組みについて事務局より、本日の検討事項について説明がなされた。

1. 各委員会で教育改善モデルを提案したが、理事会でPDCAのサイクルを回すための仕組みが必要だとの指摘があった。それに応え、教育改善モデルを教員が連携して点検・評価・改善してゆくための基準を4~5行で表現して頂きたい。

2. その後、具体的議論に入り、次のような意見が出された。

教育改善モデル(その1)について

- ・インターンシップ先と連携して評価してはどうか。
- ・プログラム自体を教員がチェックするなど、教員がファシリテートしてはどうか。
- ・インターンシップに関わる教員のチェック。専門的なスタッフを入れないと継続できないので、プログラムとそれを動かす人員の配置などをチェック。例えば、適正な人数で行われているか、インターンシップ専門のスタッフの資質が十分かなど。
- ・インターンシップをコーディネートする教員組織が整っているか。組織の点検。例えば、適切な人材かなど。
- ・コーディネートしているファシリテーター教育のチェック。
- ・コミュニケーション関係学は、教えるための組織、体制をどのように整えるかが大事。
- ・評価シートを使うときに学生の視点に合わせるのではなく、教員の視点で記述させたものが点検・評価の判断材料になるのではないか。
- ・教員の連携による点検・評価が必要ではないか。担当教員、関連する教員、他分野の教員などが学生の学びのプロセスをネット上のポートフォリオに記述してはどうか。
- ・学生のポートフォリオに記録したものが点検の材料になるのではないか。個々の学生がどれだけ変化したかで、授業がうまく回ったかがわかるのではないか。

などの意見があり、最終的にまとまった文案は下記のとおりである。

授業の点検・評価・改善

この授業では、学びのプロセスを点検・評価するシートと学習ポートフォリオなどを組み合わせて、担当教員及び関連教員間で点検・評価する。点検・評価を通じて、授業の振り返りを行い、知識の活用力、人間力、課題解決力などの視点から主体的に学ぶ教育課程の在り方、学習支援の仕組み、教員連携や学外の有識者との連携体制などについて改善策を考える。

教育改善モデル（その2）について

- ・学習成果を発表させ、教員有志のコンソーシアムで点検・評価する。
- ・作品自体が到達物なので、到達した作品が妥当かどうかを点検する。
- ・授業方法の改善として、学習支援の仕組みが必要ではないか。
- ・学習成果を発表するまでのプロセスが重要ではないか。
- ・コンソーシアムをコンテストの発表の場のように発展させてはどうか。インセンティブを与えるような場作りが必要ではないか。
- ・作り上げた作品が客観的に評価できることが大事ではないか。外部からの評価を受けることで、何が不足していたかを冷静に自覚することが振り返りになり、レベルアップにつながるのではないか。何が不足（技術、知識、作業の方法など）しているか、必要に応じたメニューを用意すべきではないか。
- ・社会にどのように関与するかを実感させ、社会とメディアとの関連を徹底的に気付かせる工夫をすべきではないか。
- ・学内の教員だけでなく、大学間や有識者でフォーラムをつくるのはどうか。
- ・教育改善モデル（1）よりも実践的な点検・評価・改善をすべきではないか。

などと意見があり、最終的にまとまった文案は下記のとおりである。

授業の点検・評価・改善

この授業では、学習成果の発表を通じて外部評価を導入し、担当教員及び関連教員間で点検・評価する。点検・評価を通じて、メディアをめぐる仕組みや社会制度について学生が主体的に関与できるような授業方法、例えば有識者などを主体としたフォーラムを企画するなどの改善策を考える。

さらに授業を効果的に実践できるような学習支援の仕組み、教員連携や学外の有識者との連携体制などについても改善策を考える。

(2) 今後のスケジュールについて

今回は、教員の教育力について検討する。

V. 次回の開催日程

日時：メーリングリストにて調整（火曜日 19：00～）

場所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室

以上